

(別添)

平成 30 年 11 月 22 日  
N I T E ( ナ イ ト )  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
中 国 支 所

# News Release

## 暖房器具の事故により5年間で107名死亡 ～誤使用・不注意による火災を防ぎましょう～

### —中国5 県版—

#### 1. 暖房器具の事故発生状況

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報<sup>※1</sup>では、暖房器具の事故<sup>※2</sup>は、中国地方5 県(鳥取県、島根県、岡山県、広島県及び山口県)では2013 年度から2017 年度までの5 年間に54 件<sup>※3</sup>ありました。

(※1) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含む。

(※2) 本資料で対象とする製品は、電気ストーブ、電気ファンヒーター、石油ストーブ、石油ファンヒーター、ガスストーブ、ガスファンヒーター、こたつ、ゆたんぼ、電気毛布、電気式床暖房、電気マット・カーペット。

(※3) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

#### (1) 中国5 県の年度別 事故発生件数

表1に「年度別・県別」暖房器具の事故発生件数を示します。

表1 「年度別・県別」暖房器具の事故発生件数

年度	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合 計
2013年度	1	2	4	6	3	16
2014年度			6	5		11
2015年度		1	1	4	3	9
2016年度		1	4	2	2	9
2017年度			2	2	5	9
合 計	1	4	17	19	13	54

## (2) 中国5県の被害状況別 事故発生件数

表2に「被害状況別・県別」暖房器具の事故発生件数を示します。

表2 「被害状況別・県別」暖房器具の事故発生件数

被害状況※4		鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
人的被害	死亡		1	2		1	4
	重傷			1		1	2
	軽傷			2	3	2	7
物的被害	拡大被害	1	3	7	9	8	28
	製品破損			5	7	1	13
被害なし							0
合計		1	4	17	19	13	54

(※4) 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。製品本体のみの被害（製品破損）に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

## (3) 中国5県の事故原因区分別 事故発生件数

表3に「事故原因区分別・県別」暖房器具の事故発生件数を示します。

表3 「事故原因区分別・県別」暖房器具の事故発生件数

事故原因区分	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
A：設計、製造又は表示等に問題があったもの			2	3		5
B：製品及び使い方に問題があったもの				1		1
C：経年劣化によるもの						0
G3：製品起因であるが、その原因が不明のもの				1	1	2
D：施工、修理、又は輸送等に問題があったもの						0
E：誤使用や不注意によるもの	1	2	6	7	2	18
F：その他製品に起因しないもの		1	1		1	3
G：原因不明のもの（G3を除く）		1	5	5	4	15
H：調査中のもの			3	2	5	10
合計	1	4	17	19	13	54

(4) 中国5県の製品別 事故発生件数

表4に「製品別・県別」暖房器具の事故発生件数を示します。

表4 「製品別・県別」暖房器具の事故発生件数

製品別	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	合計
電気ストーブ		3 [3] <sup>※5</sup>	6 [3]	8 [4]	6 [6]	23 [16]
電気ファンヒーター					1 [1]	1 [1]
石油ストーブ	1 [1]	1 [0]	5 [5]	7 [6]	2 [2]	16 [14]
石油ファンヒーター			2 [2]	1 [1]	1 [1]	4 [4]
ガスストーブ			1 [1]			1 [1]
こたつ			1 [0]			1 [0]
ゆたんぼ					1 [0]	1 [0]
電気マット・カーペット			2 [1]		1 [0]	3 [1]
電気毛布				1 [1]	1 [1]	2 [2]
その他				2 [1]		2 [1]
合計	1 [1]	4 [3]	17 [12]	19 [13]	13 [11]	54 [40]

(※5) [ ] は火災件数。

## 2. 事故事例の概要について

中国5県で発生した暖房器具の事故の主な事例を示します。

### ① 電気ストーブの事故

#### 可燃物が接触し出火

2014年2月（山口県、女性・80歳以上、拡大被害）

#### 【事故の内容】

電気ストーブ及び周辺を焼損する火災が発生した。

#### 【事故の原因】

電気ストーブのヒーター一部に可燃物が接触したため出火し、火災に至ったものと推定される。

なお、取扱説明書には、「ヒーターの前面1m以内に可燃物を置かない」旨、記載されている。

### ② 石油ストーブの事故

#### 一酸化炭素中毒で死亡

2013年12月（島根県、男性・60歳代、死亡）

#### 【事故の内容】

石油ストーブを使用していたところ、一酸化炭素中毒で1人が死亡した。

#### 【事故の原因】

燃焼空気取入口に多量の埃の堆積がみられたことから、火力を最小燃焼として密閉された室内で使用したため、給気不足から不完全燃焼状態となって一酸化炭素が発生し、就寝中で異常に気づかず、一酸化炭素中毒で死亡したものと推定される。

### ③ 電気あんかの事故

#### 長時間の接触で低温やけど

2013年4月（広島県、男性・年齢不明、軽傷）

#### 【事故の内容】

電気あんかを使用中、背中に火傷を負った。

#### 【事故の原因】

電気あんかの温度ヒューズに溶断はなく、サーモスタットは正常に作動し、温度に異常は認められないことから、電気あんかに背中が長時間触れた状態で就寝していたため、低温火傷を負ったものと推定される。

なお、本体には、「低温火傷のおそれがある。」旨、取扱説明書には、「低温火傷防止のため、使用時は身体から離して使用する。」旨、記載されている。

### 3. 暖房器具の事故の実験映像について

暖房器具の事故の実験映像及び静止画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITE のロゴ」としてください。

(本件に関するお問い合わせ先)

〒730-0012 広島市中区上八丁堀 6-30 広島合同庁舎 3号館

独立行政法人製品評価技術基盤機構 中国支所

担当者：灰川、木下、小寺

電話：082-211-0411

以上